



# 未亡人の恩返し

～バカンス中に抜け駆けしてイチャラブエッチ♡～



「わあ、ここがアウギユステ…」

とある夏の晴れた日。

団長率いる騎空団一行はバカンスを楽しむため、かの有名なリゾート地「アウギユステ」に来ていた。レオナは初めて訪れた地に胸を踊らせていた。



「ほら、団長さん！  
ほやく行きましょーうー！」

はしゃぐレオナに手を引かれて、  
青空の下に駆け出した。





レオナはかつての婚約者「アベル」と  
死別した後、慢性的な不眠症に悩まされていた。

そんなレオナの悩みを解決すべく、  
団長はバカンスの提案をしたのだ。

(いい気分転換になるかもしれないし……  
せっかくだから、思いっきり楽しんじゃおうかな……)

(それに団長さんにはいつもお世話に  
なっているし、このバカンスを通じて  
なにか、恩返し、できたらいいなあ……)

レオナは団長に気を使われていることを  
薄々感じていた。また日頃の感謝をなん  
らかの形で返したいとも思っていた。

「団長さん、いろんな出店がありますよ！  
まずはどこから行きましょうか」

大勢のバカンス客で賑わう中、レオナとともに  
出店を回る。ちなみにレオナはかなりの大食いだ。  
レオナのペースに流されて、結局全部の  
お店を回って食べまくった。お腹がきつい…




「ふう……お腹いっぱいー！  
どのお店もおいしかった〜♡」

でもこの笑顔が見られたので、よしとしよう。







小休憩した後、ビーチバレーをやることになった。  
2人1組のペアを作ったの対抗戦、おれは  
レオナと組むことになった。

「絶対に勝ちませうね！」


いざ、ビーチバレー開始。  
しかし、一番の敵はすぐそこにいた――。



バンツ!



出店を回っている時から、  
気になっていたが・・・  
健康的ですらったとした足。  
肉付きの良いお尻。  
筋肉質だけれど、  
女性らしさも感じられる  
しなやかな身体・・・。



集中できるわけがなかった。  
なんとか自制したが、結局負けてしまった。  
しかし、悔いはない。ごちそうさまでした。

「お疲れ様です！」

惜しかったですわねっ！悔しいっ！

でもとってもいい汗かけました。

ねっ、団長さん！」



体を伝う汗が、また色っぽい。  
耐えきれず、つい目をそらしてしまった。

「あっ……」

何かに気づいたような声を出したレオナ。  
ふと、レオナの視線に気づき、そこに目をやる。  
自制したつもりだったが、体は正直だった。



「その…団長さん…」

向こうでちよっと休憩しませんか」

そう言われた俺には抗うすべなど無く、  
そのまま二人で人気がない岩陰に向かった。



© 2008 by Kishimoto Shotaro

© 2008 by Kishimoto Shotaro





「団長ふぁん、きもちいいれすか？」

れるっ、れるっ、ちゅっ……

「団長さんも男の子、ですもんね♡」

出店を回っている時から、私の体

ちらちら見てたのわかってましたよ♡」

(すっかりばれていた……)

じゅぽっじゅぽっ……じゅぽんっ……

(団長さんの「っす」がく熱い……。アベルと別れてからは  
ご不沙汰だったから……。私も興奮してきちゃった……。♡)

レオナのしごきがさらに激しくなる。  
そして……

びゅんっーびゅんっーびゅんっーびゅんっー

「ぎゃっ…んっ。あっ…っすっすいっ…っこんなにいっぱい…♡」

恍惚としたレオナの表情。  
されるがまま思いつきり  
顔射してしまった。

「気持ちよかったですか？団長さん♡  
じゃあ、っすはっすっ」